プレカットの生産性向上

柱加工機入替え、サイディング加工機導入

村上木材・プレテック

村上木材（大阪市、佐原謙次社長）のグループ会社でプレカット加工を行うプレテック（同、矢山勝司社長）はこのほど、新型の全自動柱材加工機（MPS－34、宮川工機）に入れ替え、サイディング加工機（MPD－13、同）を新たに導入した。柱加工機はプレカットの生産性向上を図ることが目的で、サイディング加工機は顧客である住宅会社の意向に加え、将来的にSDGsの観点からも、現場での省施工や端材をなくすなどの動きが高まることへの対応で今回の投資に至った。

プレテックの以前の柱材加工機は、設置から約15年が経過していたため、入れ替えに至った。

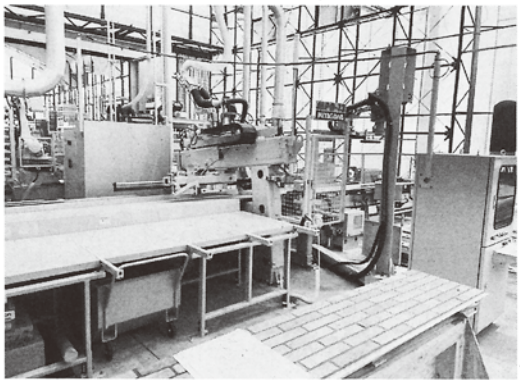
新型は、宮川工機の柱材加工機の最高峰機種で、並列画面の面加工軸による材の横転の減少や、下ホゾ用位置決めストッパーによる次加工材の待機など数々の新機構の開発により加工能力が格段に向上。

これにより加工内容により多少の差異はあるものの、平均で約1・4倍の能力向上を図れる。

今回の設備入れ替えで、同社の加工能力月産5500坪（人手＋機械能力）は変わらないものの、機械能力だけで見ると最大で同6000坪となる。

一方、サイディング加工機は、サイディングの切断、欠き加工、印字を行う。特に定番の下側にMIP型印字装置を配置し、サイディングの裏面に印字する。

また、よりスムーズに送材できる送材装置を採用している。サイディングプレカットは当初月間約5棟を計画しており、その後は、当面は月間20棟を目指していく。



プレテックに導入されたサイディングプレカット加工機「MPD－13」